



- 1 2月2日。千歳・支笏湖氷濤まつり会場に突然リングが出現。前代未聞のステージは「震災からの復興・地域に元気を」という趣旨で開催された《北海道プロレス》による、楽しめるイベントでした。極寒の会場が笑顔と歓声に満たされました。
- 2 2月9日。中心市街地交流機能創出実行委員会主催の《寒中綱引き大会》が、千歳タウンプラザ横の特設会場で初めて開催されました。東・北・空の3つの自衛隊から6チームが参加。寒さを忘れる熱戦でした。
- 3 2月11日。千歳の冬季スポーツの代名詞《ホルメンコーレンマーチ》が開催されました。ゴールでは、種目別に上位入賞を果たした親子の歓喜や完走者同士が交わす熱い握手など白銀のシーンが続きました。
- 4 2月12日。市役所第2庁舎の開設を祝うセレモニーが行われました。市民課や国保福祉の窓口など、市民の皆さんにとって身近な窓口が集まる新しい公共施設の誕生です。
- 5 2月19日。子どもの保護対策のため関係機関が連携を図る《要保護児童地域ネットワーク協議会》の研修が行われました。参加者は昨年12月に完成した児童虐待マニュアルの活用、熱心に向き合っていました。

■来月、科技大が新たな旅立ちを迎える。わずか2年数か月で道内初の公立化を成した関係者の苦労には脱帽だが、それ以上に頭が下がるのは、開学前から脈々と受け継がれた市民の思いが、在校生の志に息づいていると思えたことだ。学長室に掛けられた故・初代学長の写真と言葉の前に、志の高いまちに住むことの幸福を思う。

■広報で連載していた《ちとせつれつれ戦後史》が今月で最終回。編集段階で誰よりも早く読めるのでちとせつれつれ優越感に浸っていたので少し寂しいです。先月の快速エアポートの記事を読んだ後、鉄道ファンの息子(私は違います)とエアポートを乗り継いで今月で廃線となる石勝線夕張支線に乗ってきました。別れの季節です。

今月の表紙

科学技術大学公立化の特集に合わせて、4月から新しい学年や大学院へと進む科技大生の皆さんに笑顔をいただきました。まちなかにも、若く清々しい笑顔が集うといいですね。春の香りが漂い始める時期ですね。



4人のインタビュー記事は、6、7ページで